



## 巻 頭 言

### 欧州共同研究プロジェクト

内 田 禎 二\*

最近、欧州に行く度に RACE (欧州高度通信研究プロジェクト) や ESPRIT (欧州情報処理研究プロジェクト) 等がかなり進展していることに気が付く。例えば、欧州光通信会議 ECOC '90 (1990年9月: Amsterdam) では総発表論文数 178 件に対して 22 件の RACE 関係の発表があり、装置展示も行われた。また、IOOC '91 (ECOC '91 との joint 会議: Paris, 1991年9月) では、ちょうど RACE 研究計画の Phase-1 と Phase-2 の間の移行期に当たっていたので RACE 関係の発表や展示が数多く行われた。さらに友人から、今ちょうど受託 RACE プロジェクトの成果展示をしている最中だから欧州出張の節はぜひ寄るよにとの連絡を受けたりした。

数年前までは率直に言って、本当にこれらの研究計画が絵に描いた餅にならぬかとはたながら危惧の念を抱いていたが、昨今の各国からの成果発表を総合的にみると非常に着実に進歩していることがわかる。RACE 計画は具体的目標をデバイスからシステムまで総合的かつ網羅的に積み上げた計画で、1987~1992年の前期 550 M-ECU と 1990~1994年の後期 500 M-ECU (1 M-ECU は約 1.3 億円) の予算で進められている。なお、参加は EC 加盟国のみならず、スウェーデンやスイス等の企業・大学も参加しており、その費用はそれらの国が分担している。他方、ESPRIT 研究プロジェクトは具体的よりは、かなり基礎的かつ大胆な試みを許す仕組みになっており、例えば著者が研究している光実装技術や光接続技術なども総合的に検討している。

最近、欧州諸国を訪ねると Technopole と称するリサーチパークや Europole と称するビジネスパークが各国で目につく。例えば、マドリッド郊外でも Europole 建設が盛んに行われている。進出企業として目につくのはやはり米国企業で、著者がかつて留学していたフランスのグルノーブル市内の Technopole にはヒューレットパッカード社などの大工場が進出している。またロレーヌ地方のメッツ/ナンシー市の Technopole は通信とソフトに特化しており、ここには企業以外に米国の Georgia 工大の分校もある。傍には有名校の École Supérieure d'Électricité (Supélec) もあり、登録をすれば両大学の Double Diploma を同時に取得できる制度もある。

欧州経済統合そして大欧州圏形成への胎動を肌感する昨今である。